

プロジェクト研究発表スライド テーマ

「SD法を用いたノイズの印象評価」

高知工科大学

情報学群 情報とメディア専攻

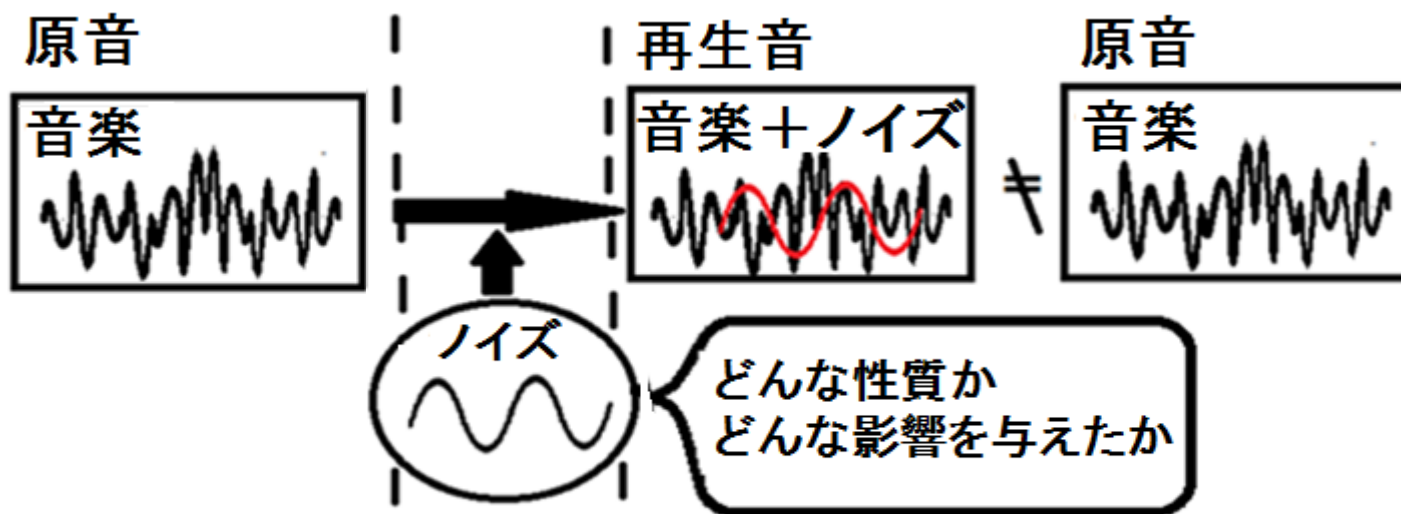
福本研究室

学籍番号1130303

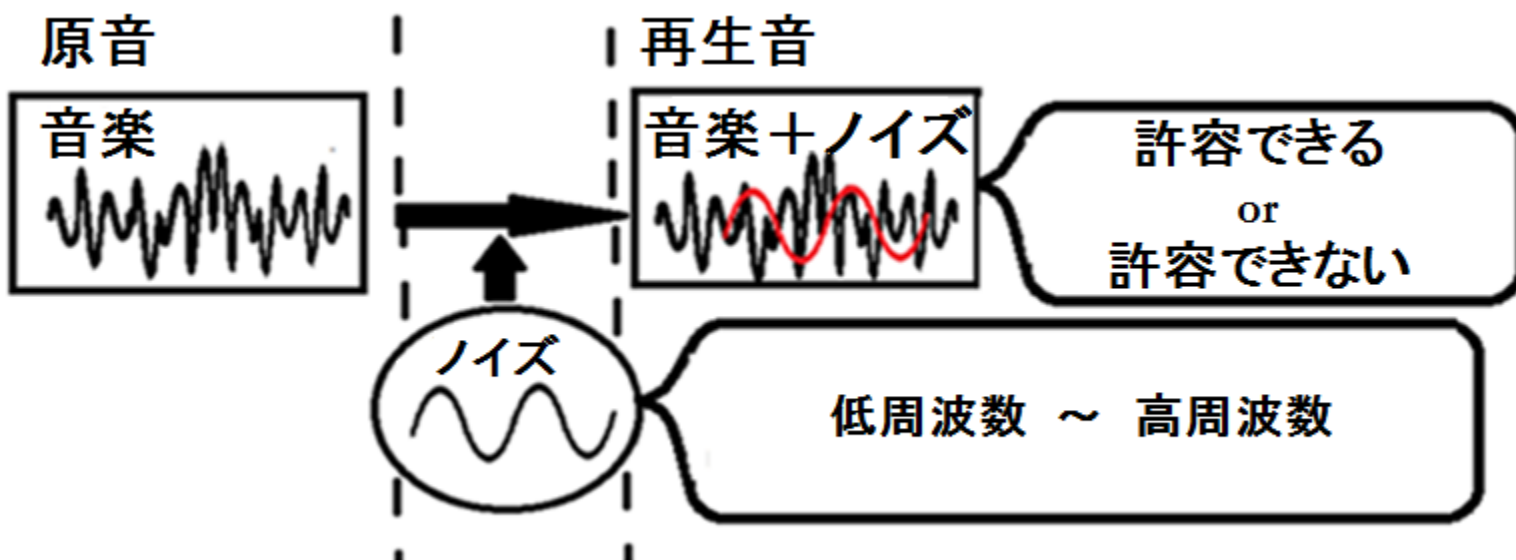
氏名 岩田 貴江

本研究の背景と目的

背景



目的

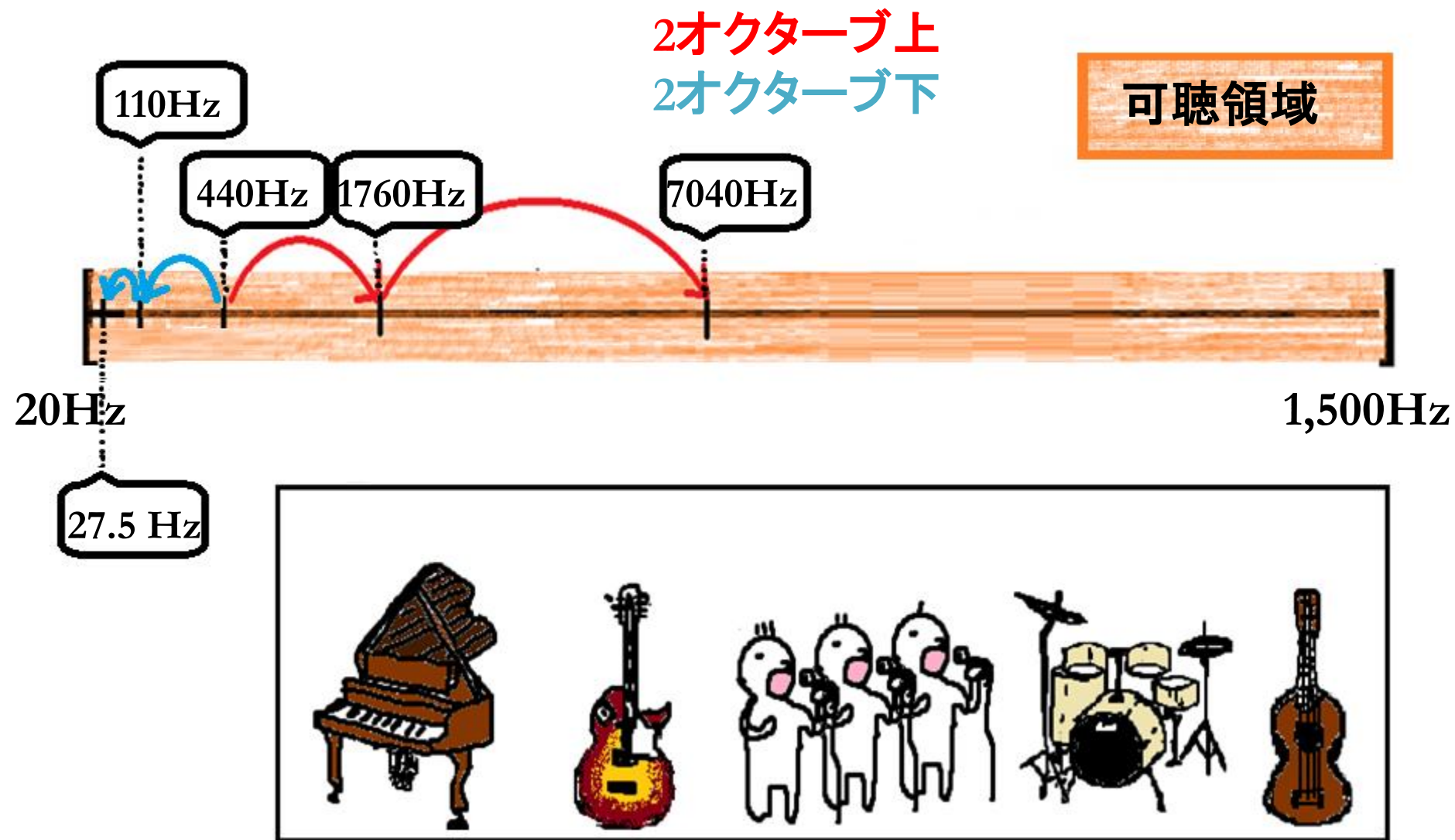


本研究内容

- ノイズの不快感指数
- 原音の阻害率

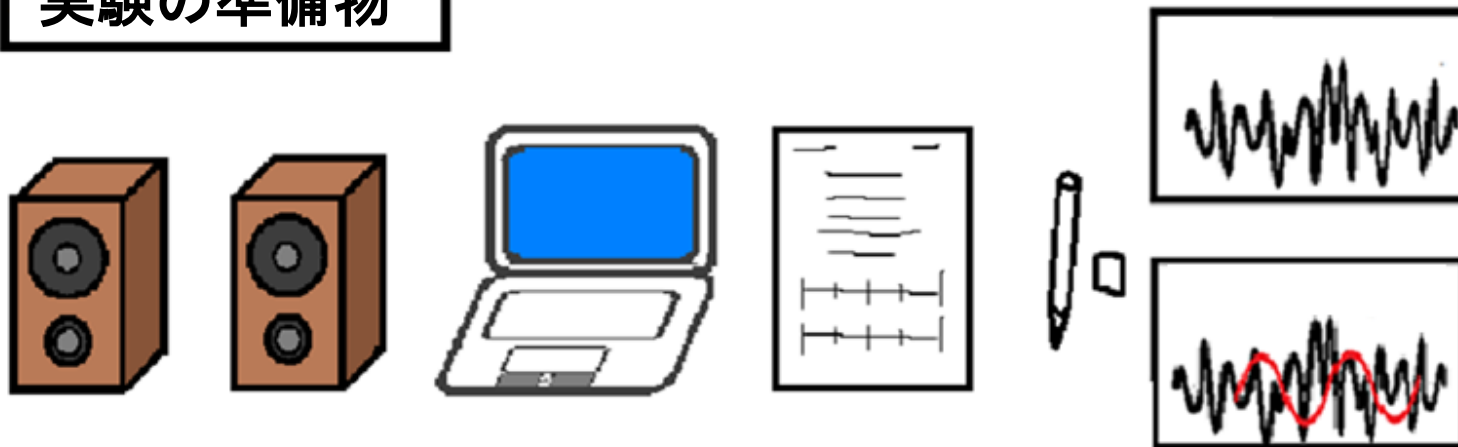
どの周波数のノイズが
どれだけ原音に影響を与えるか

可聴領域と使用するノイズと元信号

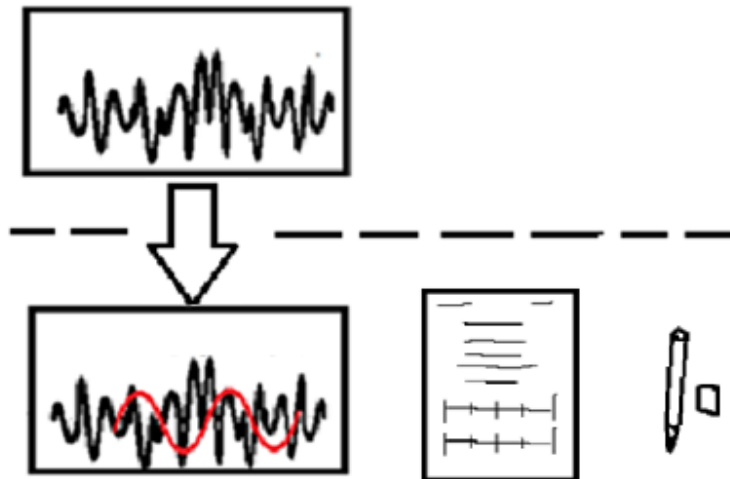


実験内容

実験の準備物



実験の流れ



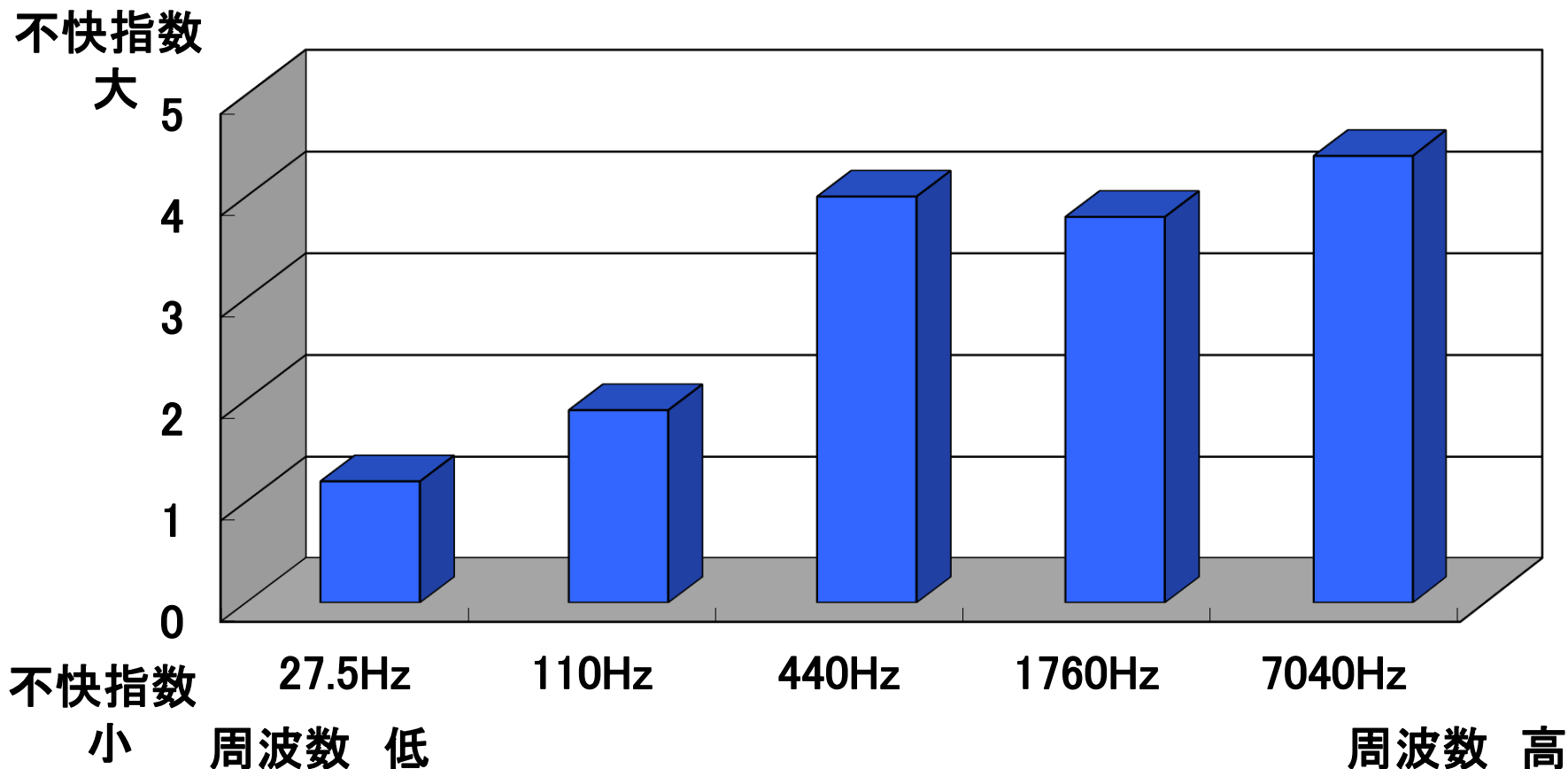
音楽を流す時間	100秒
元信号とノイズを流す時間	100秒
アンケートの記述時間 音の準備時間	200秒
実験所要時間	400秒

SD法と実験アンケート

非常に やや どちらでもない やや 非常に



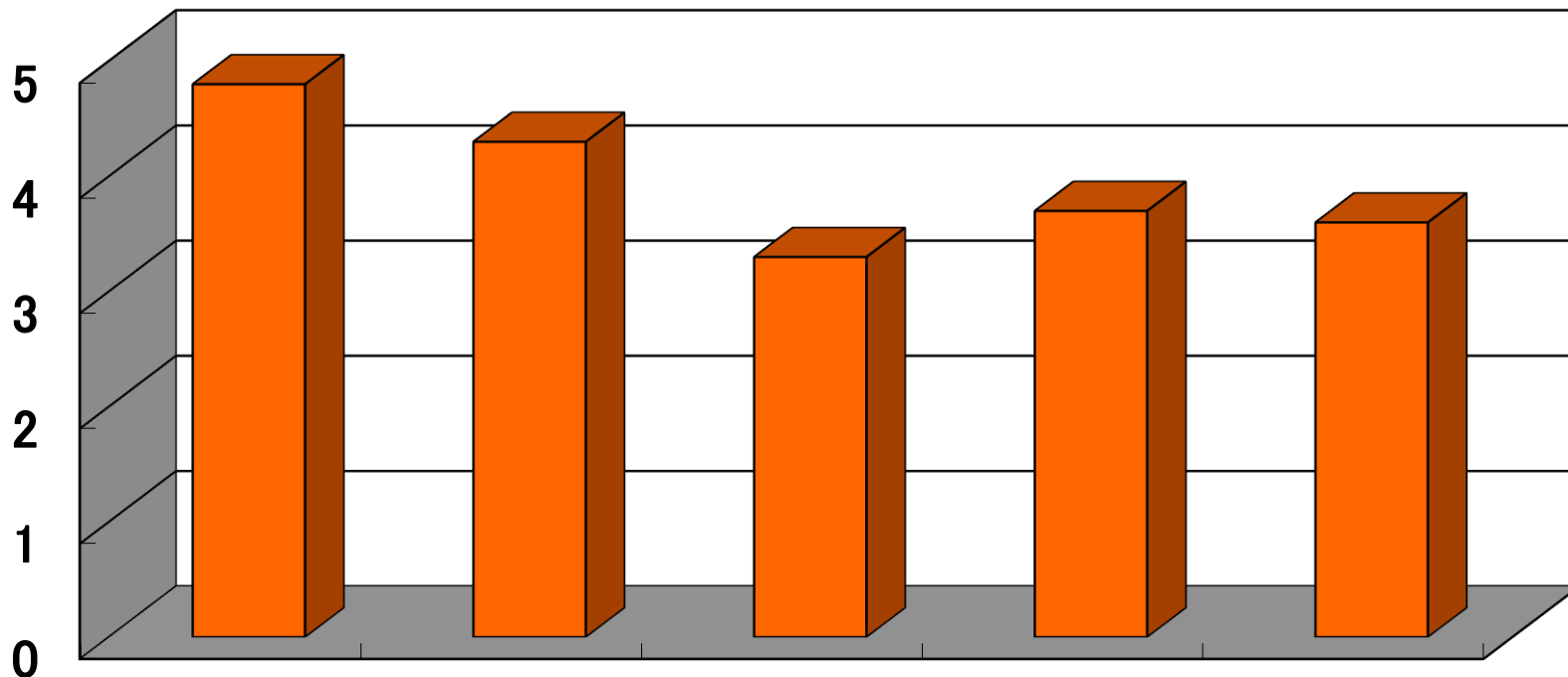
実験結果 ノイズの不快感指数



1 気にならない 2 あまり不快ではない
3 どちらでもない 4 やや不快 5 非常に不快

実験結果 原音の阻害率

阻害率
小



阻害率
大

27.5Hz
周波数 低

110Hz

440Hz

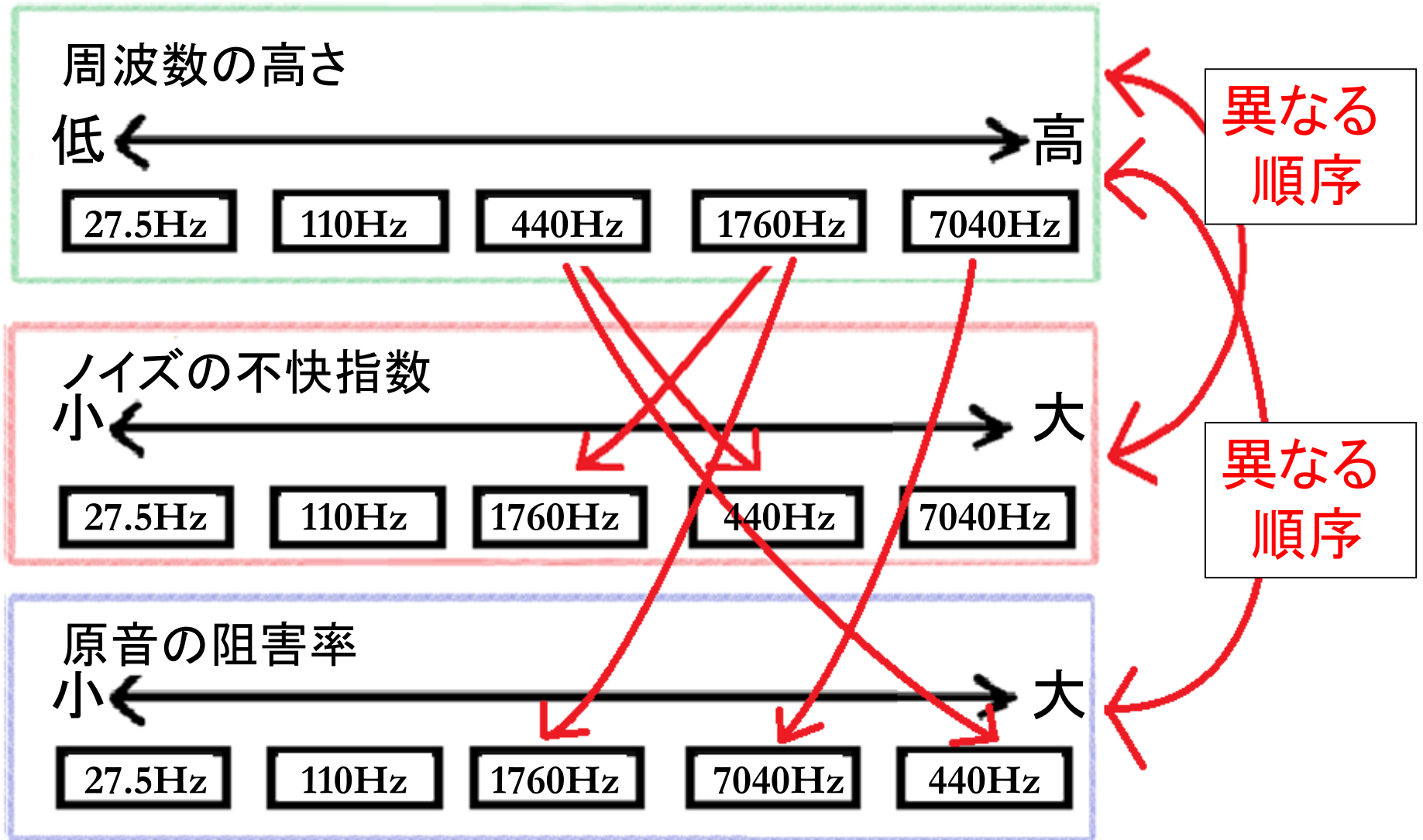
1760Hz

7040Hz

周波数 高

- 1 阻害している 2 やや阻害している 3 どちらでもない
4 あまり阻害していない 5 原音を阻害していない

実験結果の結論



まとめ

- ・ノイズの周波数の高さとの不快指数は周波数440Hzと1760Hzの順序が異なった
- ・ノイズの周波数の高さとの原音の阻害率は周波数440Hzと1760Hzと7040Hzの順序が異なった
- ・1760Hzと7040Hzの順序関係はそのままに440Hzの不快指数と阻害率が高まった
- ・最も不快だったのは7040Hzで許容できる周波数は27.5Hzである
- ・総合的に高周波数のノイズとなる程原音の影響が大きかった